

JIS X 8341-3 : 2016 概要

植木 真 (株式会社インフォアクシア)

2016年9月 総務省「地方公共団体等におけるホームページの
バリアフリー化に関する講習会」

■ 株式会社インフォアクシア

- Webアクセシビリティ・コンサルタント
- Webサイトのアクセシビリティ対応、JIS X 8341-3 / WCAG 2.0対応のサポート
- JIS X 8341-3:2004原案、2010改正原案作成委員
- W3C / WAI WCAGワーキンググループ メンバー
- 総務省「みんなの公共サイト運用モデル2015年度改定に関する研究会」構成員
- 情報提供Webサイト (<https://weba11y.jp/>) を運営

■ ウェブアクセシビリティ基盤委員会 委員長

- JIS X 8341-3 改正原案作成委員会 委員長 (2014年度)

JIS X 8341-3:2016 概要

このセッションのアウトライン：

■ 2016年版公示までの経緯

■ 2016年版の主なポイント

1. レベル AA
2. 附属書JA（参考）と附属書JB（参考）
3. JIS X 8341-3:2016への適合

2016年版公示までの経緯

2004年の制定から2016年の改定まで

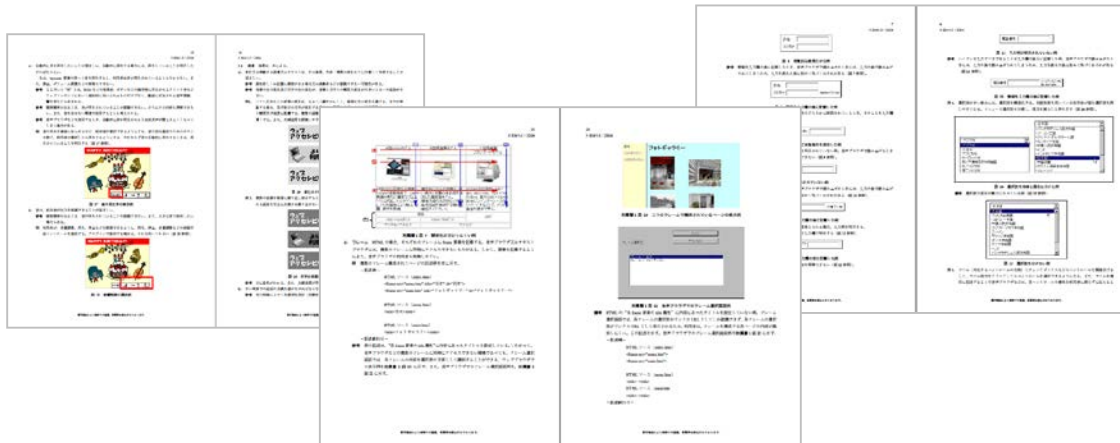
2004年6月、「JIS X 8341-3」を初めて制定

■ JIS X 8341-3:2004

■ 高齢者・障害者等配慮設計指針

- 情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス
- 第3部：ウェブコンテンツ

■ 行政サービスにおけるデジタルデバイドの回避などを目的として、特に公的機関に向けて制定された



3.1 適用領域，対象業界

この規格の第一義的な対象となる領域は，公共分野である。政府，地方自治体を始めとする公共的分野におけるウェブコンテンツは，この規格を用いることによって幅広い人々に情報へのアクセスを保障すべきである。

(日本工業規格の尊重)

第六十七条 国及び地方公共団体は、鋳工業に関する技術上の基準を定めるとき、その買い入れる鋳工業品に関する仕様を定めるときその他その事務を処理するに当たつて第二条各号に掲げる事項に関し一定の基準を定めるときは、日本工業規格を尊重してこれをしなければならない。


<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S24/S24H0185.html>

2008年12月、「WCAG 2.0」がW3C勧告に

■ WCAG(Web Content Accessibility Guidelines) 2.0

- 「WCAG 1.0」から約9年半ぶりの改定
- 各国で技術基準として採用されている“世界標準”

W3C Recommendation



Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0

W3C Recommendation 11 December 2008

This version:
<http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/>

Latest version:
<http://www.w3.org/TR/WCAG20/>

Previous version:
<http://www.w3.org/TR/2008/PR-WCAG20-20081103/>

Editors:
Ben Caldwell, Trace R&D Center, University of Wisconsin-Madison
Michael Cooper, W3C
Loretta Guarino Reid, Google, Inc.
Gregg Vanderheiden, Trace R&D Center, University of Wisconsin-Madison

Previous Editors:
Wendy Chisholm (until July 2006 while at W3C)
John Slatin (until June 2006 while at Accessibility Institute, University of Texas at Austin)
Jason White (until June 2005 while at University of Melbourne)

Please refer to the [errata](#) for this document, which may include normative corrections.

See also [translations](#).

2010年8月、「JIS X 8341-3」を初めて改定

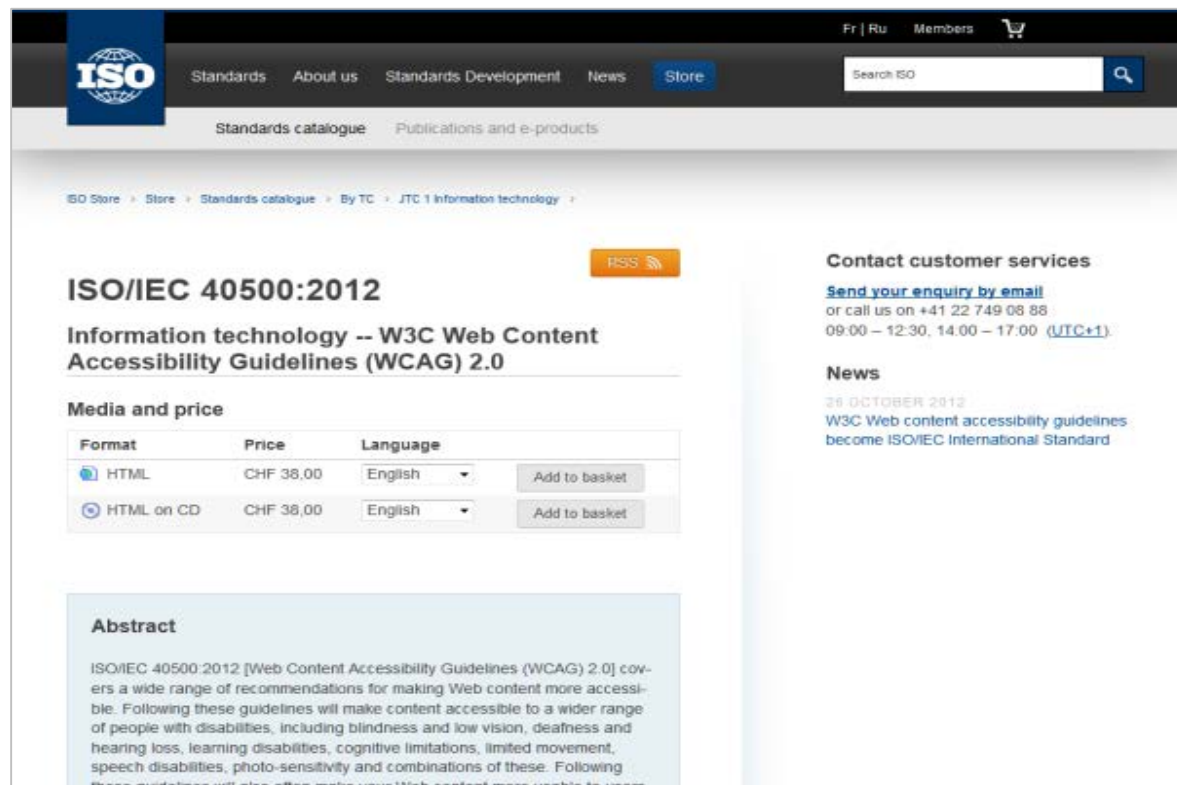
■ JIS X 8341-3:2010

- W3C勧告「**WCAG 2.0**」を**包含**する形で改定
 - 同じ達成基準をウェブコンテンツの要件として採用
 - ✓ 3つのレベル（A、AA、AAA）も同じく採用
- さらに、JISではプロセス（企画、設計～運用まで）および試験方法に関する要求事項を独自に追加

2012年10月、「WCAG 2.0」がISO/IEC規格に

■ ISO/IEC 40500:2012

- W3C勧告「WCAG 2.0」をそのまま国際規格として承認



The screenshot shows the ISO Store website interface. At the top, there is a navigation bar with the ISO logo, links for Standards, About us, Standards Development, News, and Store, and a search bar. Below the navigation bar, the page title is "ISO/IEC 40500:2012 Information technology -- W3C Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0". The page includes a "Media and price" table with two rows: HTML and HTML on CD, both priced at CHF 38,00 and available in English. There is also an "Abstract" section at the bottom of the page.

ISO Store > Store > Standards catalogue > By TC > JTC 1 Information technology >

ISO/IEC 40500:2012

Information technology -- W3C Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0

Media and price

| Format | Price | Language | |
|------------|-----------|----------|---------------|
| HTML | CHF 38,00 | English | Add to basket |
| HTML on CD | CHF 38,00 | English | Add to basket |

Abstract

ISO/IEC 40500:2012 [Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0] covers a wide range of recommendations for making Web content more accessible. Following these guidelines will make content accessible to a wider range of people with disabilities, including blindness and low vision, deafness and hearing loss, learning disabilities, cognitive limitations, limited movement, speech disabilities, photo-sensitivity and combinations of these. Following these guidelines will also often make your Web content more usable to users.

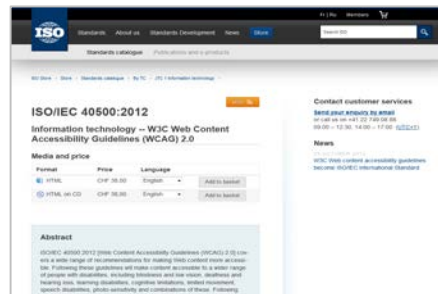
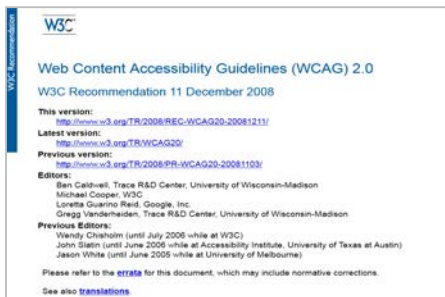
Contact customer services
[Send your enquiry by email](#)
or call us on +41 22 749 08 88
09:00 – 12:30, 14:00 – 17:00 (UTC+1)

News
26 OCTOBER 2012
W3C Web content accessibility guidelines become ISO/IEC International Standard

2016年3月、「JIS X 8341-3」2回目の改定

JIS X 8341-3:2016

- 対応国際規格となった「ISO/IEC 40500:2012」の**一致規格**とすべく改定
 - 元の「WCAG 2.0」と同じ3つのレベルの達成基準
 - JIS独自の附属書JA（参考）と附属書JB（参考）も追加



ポイント その1.
レベル AA

「JIS X 8341-3:2016」

61の達成基準、3つのレベル

- レベル A 25の達成基準
 - アクセシビリティ確保に最低限必要なレベル
- レベル AA 13の達成基準
 - 諸外国でも公的機関に求められるレベル
- レベル AAA 23の達成基準
 - レベル AAAを目標とすることは推奨しない

総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン（2016年版）」でも
公的機関に対してレベルAA対応を推奨

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/b_free/guideline.html



CONVENTION on the RIGHTS of PERSONS with DISABILITIES

[Main Page](#)

[About the Convention](#)

[Opening for signature](#)

[Media Resources](#)

[United Nations Secretariat](#)

[UN System Links](#)

[Note on Accessibility](#)

[Site Map](#)

Convention on the Rights of Persons with Disabilities

Preamble

The States Parties to the present Convention,


- a. Recalling the principles proclaimed in the Charter of the United Nations which recognize the inherent dignity and worth and the equal and inalienable rights of all members of the human family as the foundation of freedom, justice and peace in the world,
- b. Recognizing that the United Nations, in the Universal Declaration of Human Rights and in the International Covenants on Human Rights, has proclaimed and agreed that everyone is entitled to all the rights and freedoms set forth therein, without distinction of any kind,
- c. Reaffirming the universality, indivisibility, interdependence and interrelatedness of all human rights and fundamental freedoms and the need for persons with disabilities to be guaranteed their full enjoyment without discrimination,
- d. Recalling the International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights, the International Covenant on Civil and Political Rights, the International Convention on


<http://www.un.org/disabilities/convention/conventionfull.shtml>


日本と国際社会の平和と安定に向けた取組

障害者の権利に関する条約 (略称: 障害者権利条約) (Convention on the Rights of Persons with Disabilities)

平成26年7月17日

 ツイート 59

 いいね! 643

 メール

障害者権利条約は、障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的として、障害者の権利の実現のための措置等について定める条約です。

この条約の主な内容としては、(1) 一般原則 (障害者の尊厳、自律及び自立の尊重、無差別、社会への完全かつ効果的な参加及び包容等)、(2) 一般的義務 (合理的配慮の実施を怠ることを含め、障害に基づくいかなる差別もなしに、すべての障害者のあらゆる人権及び基本的自由を完全に実現することを確保し、及び促進すること等)、(3) 障害者の権利実現のための措置 (身体の自由、拷問の禁止、表現の自由等の自由権的権利及び教育、労働等の社会権的権利について締約国がとるべき措置等を規定。社会権的権利の実現については漸進的に達成することを許容)、(4) 条約の実施のための仕組み (条約の実施及び監視のための国内の枠組みの設置。障害者の権利に関する委員会における各締約国からの報告の検討)、となっています。

障害者権利条約は、2006年12月13日に国連総会において採択され、2008年5月3日に発効しました。我が国は2007年9月28日に、高村正彦外務大臣 (当時) がこの条約に署名し、2014年1月20日に、批准書を寄託しました。また、同年2月19日に同条約は我が国について効力を発生しました。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html

各国や地域における法制化・規格化

何らかの形で法制化している国や地域

- アメリカ、イギリス、イタリア、フランス、ドイツ、スペイン、スウェーデン、オランダ、オーストリア、ベルギー、ポルトガル、ノルウェー、ブラジル、カナダ（オンタリオ州）、オーストラリア、ニュージーランド、韓国、日本 など

法制化されていないが、規格等がある国や地域

- デンマーク、アイルランド、フィンランド、ルクセンブルグ、シンガポール、タイ、香港 など

平成 28 年 4 月 1 日から施行！

しょうがいしゃさべつかいしょうほう

障害者差別解消法

※正式名称は、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」です。

この法律は、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、共に生きる社会をつくることを目指しています。

「不当な差別的
取扱いの禁止」
とは？

この法律では、国・都道府県・市町村などの役所や、会社やお店などの事業者が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。

「合理的配慮の

この法律では、国・都道府県・市町村などの役所や、会社やお店などの事業者に対して、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が

ポイント その2.

附属書JA（参考）と附属書JB（参考）

ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上のプロセスに関する推奨事項

- ■ どのように対応を進めていけばよいかの基本的な枠組み、流れを示している
 - ■ 企画、設計、制作・開発、確認、保守・運用に至る各プロセスにおける推奨事項
 - ■ **PDCAサイクル**によるウェブアクセシビリティの確保・維持・向上

試験方法

- 「ウェブページ単位」と「ウェブページ一形式単位」

ウェブページ単位：

- **特定のURLだけ**が対応している場合

ウェブページ一形式単位：

- **Webサイト全体やディレクトリ全体**で対応した場合
- 試験は「ランダム選択25ページ以上」 + 「任意選択15ページ以上」で実施すればよい
 - 総ページ数に関係なく、**計40~50ページ程度**が目安

ポイント その3.

JIS X 8341-3:2016への適合

JIS対応の基本的な進めかた

方針を決める

- 対象範囲、目標とするレベルと対応度



対象範囲での対応を進める



試験を実施する

- 特定のページのみ対応 = ウェブページ単位
- Webサイト全体などで対応 = ウェブページ一式単位



試験結果を公開する



WAIC独自の各種ガイドライン

■ ウェブコンテンツのJIS X 8341-3:2016 対応度表記ガイドライン

- <http://waic.jp/docs/jis2016/compliance-guidelines/201603/>

■ ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン

- <http://waic.jp/docs/jis2016/accessibility-plan-guidelines/201604/>

■ JIS X 8341-3:2016 対応発注ガイドライン

- <http://waic.jp/docs/jis2016/order-guidelines/201604/>

■ JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン

- <http://waic.jp/docs/jis2016/test-guidelines/201604/>

適合 = 供給者適合宣言

- ■ 当規格の基準を満たしていることを示す一つの方法として「**供給者適合宣言**」がある
 - 「JIS Q 17050-1 適合性評価 供給者適合宣言 第1部：一般要求事項」
 - 「JIS Q 17050-2 適合性評価 供給者適合宣言 第2部：支援文書」
 - ■ 試験は「**JIS X 8341-3:2016**」の要求事項を理解していれば**誰でも実施可能**
 - ■ Webサイトの運営者
 - ■ 受託しているWeb制作会社
 - ■ どちらでもない第三者
- いずれの場合もサイト運営者が「供給者適合宣言」を行う

「供給者適合宣言」が困難な場合

■ ウェブアクセシビリティ基盤委員会作成の「対応度表記ガイドライン」を用いる

- 総務省「みんなの公共サイト運用ガイドライン」でも採用

表1 表記の相違点

| 表記 | ウェブアクセシビリティ方針の提示又は公開 | 目標とする適合レベルの達成基準の試験結果 | 追加表記事項 |
|------|----------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 準拠 | 必須 | 試験を実施し、達成基準を全て満たしていることを確認 | なし |
| 一部準拠 | 必須 | 試験を実施し、達成基準の一部を満たしていることを確認 | 今後の対応方針 部分適合に関する記述（適用する場合） |
| 配慮 | 必須 | 試験の実施の有無、結果は問わない | 目標とした適合レベル又は参照した達成基準一覧 |

試験対象ページの選定方法

■ ウェブアクセシビリティ基盤委員会作成の「試験実施ガイドライン」

- ウェブページの試験は、対象範囲内にある**全てのウェブページがJIS対応を済ませていること**が大前提

表1. 「b)ランダムに選択する場合」の試験対象ページ数の目安

| 選択するページ数 | 説明 |
|----------|-------------------------|
| 10ページ以下 | 試行的な試験であり、合否を判定するのには少ない |
| 11～24ページ | 合否判定に要する最低限のページ数 |
| 25～39ページ | 合否判定に要する標準的なページ数 |
| 40ページ以上 | 合否判定に十分なページ数 |

最後に

JIS対応 / Webアクセシビリティ うそ? ホント?

- 障害者のためだけに特別なコトをする
- ウチのWebサイト、高齢者や障害者は使わない
- 文字サイズ変更ボタンが必要
- 文字色 / 背景色変更ボタンが必要
- 音声読み上げ機能が必要
- デザインの見た目がつまらなくなる
- チェックツールだけで機械的にチェックできる

全部ウソです。